

箕島球友会がV

クラブ野球選手権

社会人野球の第40回全日本クラブ選手権大会(毎日新聞社、日本野球連盟主催)最終日は7日、埼玉・西武プリンスドームで準決勝と決勝を行い、決勝で和歌山箕島球友会(和歌山)が茨城ゴールデンゴールズ(茨城)を7-2で降して2年ぶり3回目の優勝を果たし、4回目の日本選手権大会出場を決めた。



優勝し抱き合っている和歌山箕島球友会の選手たち
—猪飼健史撮影

決勝は箕島球友会が2点を追う6回に3連続安打などで3点を挙げ逆転。七回には3四死球と長短打で一気4点を加えた。新人の右腕・寺岡は6回以降、三塁を踏ませず完投した。

表彰選手は次の通り。

最高殊勲選手―寺岡大輝(和歌山箕島球友会)▽敢闘賞―丸山雄大(茨城ゴールデンゴールズ)▽首位打者賞―平井徹(和歌山箕島球友会、19打席18打数8安打、打率4

割4分4厘) 2点を追う6回に3連続安打などで3点を挙げ逆転。七回には3四死球と長短打で一気4点を加えた。新人の右腕・寺岡は6回以降、三塁を踏ませず完投した。

▽準決勝
松山フェニックス 001010000002
1004000000X5
茨城ゴールデンゴールズ (松) 秋山章、島、松井一喜 井(茨) 倉田、丸山、樋口 千葉熱血MAKING 0120000003
和歌山箕島球友会 0000001214
(千) 中山、櫻尾、宮沢(和) 桐原、北面、水田▽本塁打 渡辺由、鷲崎(千) ▽決勝
茨城ゴールデンゴールズ 100001000002
000003400X7
和歌山箕島球友会 六回一気に逆転

息詰まる接戦を制して決勝まで勝ち進んだ和歌山箕島球友会が、

点	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0
打	3	3	4	4	4	3	0	3	2	0	0	0
G	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本
城	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本

計	30	6	2
球友会	3	0	0
高橋	4	5	2
D	2	0	2
H	3	4	0
⑤	2	0	0
⑥	2	0	0
⑦	3	1	3

最後の1戦でも粘り強さを見せつけた。準決勝をサヨナラ勝ちで制した喜びもつかの間、36分後には再び緊迫する決勝が始まった。一回に先制され、三回に1死から3連打で満塁の好機を作るもあと1本が出ない。五回にはさらにリードを広げられ、嫌な空気が流れる。しかし、ここから反撃が始まった。六回2死一、二塁で打席には、準決勝で反撃の口火となる適時打を放った主将の8番・浦川。外角直球を中前打にはじき返して1点を返すと「チームの雰囲気は一変した」。(西川監督)。9番・野田は、前日の準々決勝で負傷した中軸の山下に代わり先発出場。「初球から思い切り振っていくことだけを考えて」と、低めの直球を中前に運んだ。続く平井も執念の内野安打。この回3点を奪い、一気に展開を変えた。選手は地元のスーパ

計	33	10	7
球友会	3	1	0
高橋	4	5	2
D	2	0	2
H	3	4	0
⑤	2	0	0
⑥	2	0	0
⑦	3	1	3

全日本クラブ野球

社会人野球の第40回全日本クラブ選手権(4〜7日、西武プリンスドーム)は、和歌山箕島球友会が2年ぶり3回目の優勝を果たして閉幕した。新旧交代が進んだ箕島球友会は若い力が光った。今季、8人の新人が加入し、そのうち5人が投手。大産大出身の右腕・寺岡は3試合で登板し、全足利ク戦で完封、茨城ゴールデンゴールズ戦で完投して最高殊勲選手にも選ばれた。成美大出身の右腕・桐原、関西国際大出の右腕・北面も力を発揮した。チームの大きな自信につながったのが、今夏の都市対抗近畿2次予選だ。1回戦で先発した桐原は新日鉄住金広畑を完封。寺岡と北面が継投した2回戦では日本生命に逆転負けしたが、四回まで5点差でリードする

Vの箕島球友会 若い力躍動

準優勝の茨城ゴールデンゴールズは前回大会決勝で競り勝った松山フェニックスと準決勝で再戦。四球や敵失を絡めて得点し決勝に駒を進めたものの、決勝では逆に四死球を出して点差を広げられ2連覇はならなかった。昨夏の都市対抗に出場した全足利ク、過去3回優勝の大和高田クなど地方のあるチームが準々決勝で敗退する一方で、4強入りし台風の目となったのが初出場の千葉熱血MAKING。2006年に現千葉県知事の森田健作氏が設立。大きなスポンサーや専用グラウンドは持っていないが、土日に年間80試合をこなすなど実戦に力を注いだ。準決勝で箕島球友会にサヨナラ負けしたものの、今年新加入した右腕・中山や左腕・迫田らが力投。今後につながる活躍を見せた。

【長田舞子】